



院長のご近所探訪

～浅草寺「羽子板市」編～

正式には「歳の市」といいますが、近年は「羽子板市」と呼ばれ親しまれています。12月18日の前後の計3日、浅草寺の境内で行われ、縁起物の羽子板等売る店が多く並びます。店主の威勢の良い三本締めなど、江戸風情が残る催しです。

年頭所感

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては穏やかにお正月を過ごされたことと思いますが、いかがでしょうか。平成31年（2019年）は平成最後の年となりますが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて当院の365日リハビリテーション訓練体制は、おかげさまで昨年より順調に推移しており、それに伴いまして当院の医業収入も右肩上がりで増加するとともに、入院患者さんに質、量ともに十分満足していただけるリハビリテーションを提供できているものと自負しております。この場をお借りしましてセラピスト（療法士）の増員を認めていただきました東京都ならびに東京都医師会に深く感謝申し上げます。また、回復期リハビリテーション病棟の入院料に関しましては、今年中に最も報酬の高い入院料1を取得できるよう、関係職員の協力をお願いする次第であります。なお、院内の問題で恐縮ですが、今年も昨年に引き続きエレベーター1基の改修工事を行う予定であり、患者さんはじめ利用者の方には多大なるご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、設備の老朽

化に対する工事でありますので何卒、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

つぎに今後の事業展開について述べますと、当院が都内12医療圏にあります各地域リハビリテーション支援センターの中心、すなわちセンターオブセンター的な役割を担う事業を東京都より委託されることになりました。具体的には中堅・若手のセラピストに向けて実務研修を行い、東京都全体のリハビリテーション医療のレベルアップに貢献することであり、そのための教育プログラムなどが必要になると考えています。当院スタッフの専門家が力を合わせて当院オリジナルの素晴らしいテキストを作成してくれるものと期待しております。

一方、類のない速さで超高齢社会に突入したわが国では、急性期医療から在宅復帰へとつなぐ回復期医療の需要がますます増えてくるものと思われれます。したがって当院の使命は、運営理念に掲げてありますように、医療のみならず福祉・介護との連携推進をはかることであり、この使命を果たすべく今年一年も職員一同、努力していく所存であります。

結びとしまして今年一年、皆様方におかれましては、健康に十分ご留意の上、ますますご活躍されることをお祈り申し上げます。

院長 新井康久

運営理念

リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。



療養支援室の活動について ～入職。そして、いま～

当院の療養支援室（2F医療福祉連携室内）は、退院支援看護師とソーシャルワーカーで構成され、退院支援部門として入院早期から退院後の生活を見据えた支援を開始しております（平成30年2月入退院支援加算1取得）。今回は、昨年入職した3名の医療ソーシャルワーカー（MSW：Medical Social Worker, 以下、MSWと称す。）から療養支援室の活動についてご紹介いたします。



河村 寛詞
平成30年7月
入職

当院入職前は、一般病院に長く勤めておりました。主に、肺炎や整形疾患等で入院されるご高齢の患者さんを対象に、退院後の介護保険サービスの利用調整や、介護施設へ入所相談等の支援が中心で、主治医の退院支援依頼に応じて支援を開始するという流れでした。一方、当院では入院時に退院困難と予想される患者さんには、MSWや退院支援看護師が早期に介入し、退院後の生活にソフトランディングできるよう、多職種と退院前カンファレンスなどの緻密な連携・調整を行っており、特に地域との繋がりの大切さを実感している次第です。今後は、患者さんがこれから先どのような生活を送っていきたいか自己決定するための「退院支援」と、患者さんが必要とする社会資源や社会保障制度へと繋ぎ、退院に向けて調整する「退院調整」に視点を置いて、療養支援室のMSW業務に日々努めていきたいと思っております。



濱名 智加
平成30年10月
入職

私は前職で、障害をお持ちの方を対象とした自立訓練事業所に勤務しておりました。新しく就いたMSWというこのお仕事は、突然の疾病に対する患者さんやご家族の葛藤や、患者さんの身体面・高次脳面などの「現在」を把握した上で、これからどう生活されたいかという「未来」に向けて、様々な調整・連携を図る仕事なのだと思っております。当院の患者さんは何らかの障害を持ち地域に帰られる方も多く、その中で「出来ないこと」だけに目を向けるのではなく、今後の可能性・ご家族の協力体制といった「強み」にも着目し、支援計画を立てていくことが求められます。そのためには患者さんやご家族の「過去」、どう生きてこられたか、これまではどう困難を乗り越えてこられたかを傾聴することが欠かせないのだと思えます。



関口 美香
平成30年10月
入職

私は前職で回復期リハビリテーション病院に勤務しておりました。以前の病院では、入院の申し込み受付から退院後の医療処置の調整まで多岐に渡って医療ソーシャルワーカーが担っていました。地域との窓口が1つと決まっておりますが、反面、医療処置に関する調整では専門性に欠ける調整となってしまう、退院時の看護師の関わりが如何に重要か、日々実感しておりました。一方、当院では、療養支援室に退院支援看護師がおり、患者さんの生活スタイルに合わせた訪問看護の利用や、医療処置の詳細を地域の関係者へ直接伝えることができているため、医療ソーシャルワーカーは社会的な部分や退院後の生活に重点を置いた支援に専念できています。退院支援看護師との協働による専門性の高い支援ができる体制があることが療養支援室の強みです。これからも多職種との連携を図り、支援の充実と質の向上を目指していきたく思います。

看護部の取組み Vol.5 ~あれ&これ~ご紹介



看護師ユニフォーム、靴、キャップの移り変わり

看護師ユニフォームの歴史をみると、19世紀後半に活躍したフローレンス・ナイチンゲールら女性看護婦は長袖で裾の長いワンピースの上に白いエプロン、帽子を着用していました。

日本では1885年に最初の看護婦養成所として有志共立東京病院看護婦養成所（現：慈恵看護専門学校）が創設されました。養成所で着用されたユニフォームは式服と平常服があり、平常服は筒袖の上着と袴のような長いスカートに草履を履いていたそうです。

その後、日本赤十字社でも看護婦養成が始まり、ユニフォームは裾の長いワンピーススタイルでした。戦後「保健衛生法・環境衛生法」が制定され、清潔な白衣の着用が義務づけられ、白のワンピースが全国的に普及しました。

1960年代からファッション性が重視され、1980年代にはデザイナーズブランドの白衣も登場しました。素材も制電性、防皺性、抗菌性などの高機能素材が開発されとても着やすくなったのを覚えています。

1990年代からパンツスタイルも取り入れられるようになりました。

1996年からNHKでアメリカの医療ドラマ「ER救急救命室」が放送され、スクラブタイプのユニフォームが広まりました。色も白から多彩なカラーになりました。

2001年には「保健師助産師看護師法」が改正され「性別による相違をなくする名称の統一」により看護婦、看

護士の名称が「看護師」になりました。

2011年の東日本大震災をさかいに災害時にワンピースのユニフォームは活動しづらいため、多くの病院でパンツスタイルに転換しました。上着も動きやすいスクラブタイプを採用する病院が多くなりました。靴に関しても1995年の阪神淡路大震災を機にそれまで主流だったサンダルから靴になりました。サンダルは足が保護されず、保温性にも欠けるため災害時には不適切であるとの理由からです。

キャップ（帽子）は20数年前に感染の問題や男女雇用機会均等法の成立により男性看護師が増えたことなどがあり、徐々に姿を消していきました。キャップを付けると気持ちが引き締まる思いがしたのですが、今やキャップを知らない看護師の方が多くなりました。

さて、当院でも平成30年10月10日からスクラブタイプのユニフォームに変更しました！！

看護師はワインカラー、ピンク、グレー、看護補助の職員はグリーンとしました。

院内が明るくなり、職員も動きやすくなり、患者さんからも大好評です。

男女兼用なので男性看護師もピンクのユニフォームを着て働いています！！

看護部長 竹下礼子



明治20年ころ



ナイチンゲール



日赤看護学校



ワンピースとキャップ



デザイナーズブランド



– REHA NEWS –

ニュース イベント

病院向けBCPセミナーを開催しました

当院では、昨年10月12日、民間企業の専門スタッフを講師に招き、院長をはじめ、多職種職員を対象に、BCP策定に向けたセミナーを開催しました。

第1部の講演では、「BCP策定の必要性」、「想定するリスク」、「策定プロセス」、「継続的改善のための取組み」について学びました。

第2部のワークショップでは、「M7.8の首都直下型地震が発生。病院所在地震度6強」という災害想定の中、BCP策定に必要な8つの検討事項、「初動対応」、「災害時の優先業務」、「停電の影響」、「上水道停止の影響」、「医療ガス停止の影響」、「職員へのサポート」、「災害拠点病院からの受入要請への対応」、「下水道停止の影響と対応」について、“災害対策の責任者として必要と考えられる対応”を、職階や職種を超え、真剣な中にも「言うモア」が飛び交う活発な議論・発表が行われました。

ワークショップ後は、講師より、東日本大震災時に被災地の病院で実際に起こった事象の具体例を交えながら、検討事項に対する解説が行われ、議論の中で不足していた視点や認識等について振り返り、“気づき”を得ました。

研修後のアンケートでは、「課題の多さを再認識した」、「所属間の情報交換が重要」、「早く策定すべき」など、BCP策定に意欲的な感想が多く見られました。

今回のセミナーで、全職員がBCPについて共通の認識を持つことの重要性を学ぶことができ、BCP策定の機運が高まりました。これを機に、当院における実効性のあるBCP策定に向けた具体的な検討を進めていきたいと思えます。

BCPってナーニ？

業務継続計画（BCP：Business Continuity Plan）のことです。大規模な災害、事故等が発生し庁舎等の施設やライフラインが被災した場合でも、日常業務の中で優先的に対応しなければならない業務を継続させる考えで、業務再開までの目標時間や行動手順を整理するものです。

事務室 庶務係 中島 裕司



平成30年度自衛消防審査が開催されました

平成30年9月3日、向島消防署による自衛消防審査が、当院において実施されました。

今年度より、事前設定された会場において開催する大会方式から、各事業所において審査を実施する方式に変更され、22事業所、全27隊の自衛消防隊が参加しました。

当院では、男性隊3名（理学療法科 重元伸悟、作業療法科 高橋啓、事務室 林龍太郎）、女性隊3名（理学療法科 前原菜、作業療法科 山本夏美、看護部 山下愛）の2隊が参加し、多忙な日常業務の合間に自主訓練を重ね、審査に臨みました。

訓練想定は、「業務中に地震が発生。それに伴い火災が発生し、自動火災警報装置が鳴動。初期消火、通報、けが人の救護及び在院者の非難誘導を実施し、到着した消防隊に状況を報告する。」という内容です。

迎えた審査当日。消防隊や幹部職員が見守る中、審査が始まると、自主訓練を始めた頃の隊員とは違い、自信に満ちた様子で、訓練想定を覇気ある声で一挙手一投足を機敏に行動し、素晴らしい内容で完遂しました。

結果は、女性隊が「優秀賞」を獲得し表彰を受けました。男性隊は、「優良賞」という結果を受け、全参加隊の水準の高さを感じました。

当院では、今後も、自衛消防訓練審査の経験を活かし、

防火防災の意識を高め、病院の安全・安心のため、更に訓練を積み重ねてまいりたいと思います。

事務室 庶務係 中島裕司



手話付き介護予防講演会

平成30年10月18日（木）午後14時から16時30分、みどりコミュニティセンターにて平成30年度墨田区介護予防普及啓発事業「介護予防の為に腰痛・膝痛講演会」の講師をしてまいりました。総論と腰痛をPT植松、膝痛をPT島村が担当しました。参加者は45名（男性6名、女性39名）平均年齢76.7歳、うち7名が聴覚障害者だったため手話通訳者が入りました。

高齢化社会において、運動器疾患が原因となり要支援、要介護状態に陥る方は多く、予防的支援はとても重要です。今回の講演では、キーワードを『痛みのコントロール』とし「①知る ②姿勢を正す ③日常生活上の注意点 ④運動療法」の4項目に分けて説明を行いました。「②姿勢を正す」では、全参加者の正面と側面の立っている写真を撮り印刷配布し、それを見ながら姿勢をチェックする新しい取り組みを行いました。また、聴覚障害者の方への配慮として、視点を変える際はゆっくりと行い視点が迷子にならないように注意する事を学びました。今回

参加された聴覚障害者の方はみな積極的で説明に対する反応も良く、場の雰囲気や和ませてくれました。今後も微力ながら、地域の医療や健康福祉に関わっていただきたいと思います。



理学療法科 主査 植松寿志



医療福祉連携室だより



平成30年度 第1回 区東部地域リハビリテーション連絡協議会 幹事会の開催について

日時：平成30年10月17日（水）19:30～ 会場：リッチモンドホテルプレミア東京押上
（事務局：区東部地域リハビリテーション支援センター（東京都リハビリテーション病院 地域リハビリテーション科））

平成30年10月17日（水）、リッチモンドホテルプレミア東京押上にて、平成30年度 第1回 区東部地域リハビリテーション連絡協議会 幹事会が開催されました。

当協議会の前身の連絡会は、平成13年度に東京都リハビリテーション病院が地域リハビリテーション支援センターの指定を受けてまもなく墨田区に発足し、地域リハビリテーションの実施施設の支援、従事者に対する援助・研修等に関する活動を行ってまいりました。

平成19年度から、区東部地区（墨田・江東・江戸川）3区での地域リハビリテーションの充実を目指し、3区の幹事（地区医師会、行政機関、医療や介護の専門職種代表）が一堂に会し、年2回、事業報告や意見交換を行っております。

今年度1回目となる本連絡協議会では、前半は、事務局より、今年度前期の研修会開催状況、今後の開催予定を報告し、その後、3区の幹事から、今年度前期の介護予防事業/地域リハビリテーション活動支援事業の取組状況をご報告いただきました。

後半は、3区の介護予防事業の取組状況や介護報酬等について、意見交換を行いました。中でも、今年4月に行われた介護報酬の改正についての情報共有では、忌憚のない意見を交換することができたと同時に、地域の多職種連携における課題が山積していることも改めて実感した会議となりました。

今後の活動において、区東部地域リハビリテーション支援センターとして、皆様のご意見を反映した有意義なセミナーを開催し、地域の医療・介護・福祉・保健に従事される皆様へ、地域リハビリテーションの普及・啓発に努めてまいります。

幹事の皆様、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。第2回目は、3月13日（水）に開催を予定しております。引き続きどうぞよろしくをお願いいたします。



会議の様子

平成30年度 地域リハビリテーションセミナー【後期】開催予定

対象者 墨田区・江東区・江戸川区のリハビリ専門職・看護師・地域包括スタッフ等

| | 日 程 | 時 間 | テーマ（仮） | 会場 （すみだ産業会館） | 費用 | 定員 |
|-----|---------------|---------------------|---------------------|-----------------|----|-----|
| 第5回 | 平成31年1月18日（金） | 18:30 ～ 20:30 | 訪問での精神疾患のある方へのアプローチ | 会議室4 | 無料 | 65名 |
| 第6回 | 平成31年1月31日（木） | | 介護老人保健施設でのリハビリテーション | | | |
| 第7回 | 平成31年2月15日（金） | | 墨田区地域リハ活動支援事業の実際 他 | | | |

※参加には事前のお申し込みが必要です。開催日が近くなりましたら、関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。今までFAXによる開催案内の通知がなく、ご参加希望される場合やお問い合わせがある場合は、区東部地域リハビリテーション支援センター事務局（TEL:03-3616-8600 内線376）までご連絡下さい。

おもしろ体験記

Vol.8



子育て奮闘記 Vol.3

(お金のあれこれ編)

私は家庭の事情で第2子の育児に参加するために、6ヶ月間の長期育児休業を、当院の男性職員として初めて取得しました。職場復帰後の皆さんからの質問はお金に関する話が多かったように思います。本稿では、男性育児休業中のお金のあれこれについてQ&A方式でお伝えします。

Q1：育児休業中の給付金は女性より少ない？多い？

A1：同額です。月給の67%かつ社会保険料が免除される（住民税は支払う必要あり）ので、だいたい手取り額の8割くらいです。

Q2：給付金はいつ支払われるの？

A2：2ヶ月ごとにまとめてハローワークから支払われます。私の場合は10月1日から育児休業に入っ

て、最初の給付金の受け取りが12月下旬でした。

Q3：給付金はいつまでもらえるの？

A3：支給率67%の期間が180日間です。181日目以降、子供が1歳の誕生日を迎える前日までの期間については50%となります。

また、保育園が決まらないなど特別な理由が認められた場合は最長で2歳まで延長できることがあります。

Q4：母親が育児休業を取得していても、父親が育児休業を取れるの？

A4：母親も父親も同時に取得できます。今回、私と妻は、同時に育児休暇を取得して、貴重な育児の時間を共にできました。この経験は、家族にとって何よりも代えがたい時間になったと思っています。

以上、私の実体験の話となります。育児休業の制度は今後も変更されると思いますので、取得をお考えの方は最新情報をお調べになることをお勧めします！

理学療法科 主任 廣澤全紀



都 里 小 人のご紹介

Vol.1

このコーナーでは、当院に縁の深い方をご紹介します。

当院作業療法科でとてもお世話になっているN子さんをご紹介します。皆様、当院の車いすの患者さんが、麻痺した手を置くクッションや、車椅子の背中につけるカバンを、利用されている姿を見たことがありますか？また、作業療法で使用しているお手玉や、麻痺した手を支えるアームスリング、ショルダーバッグその他色々、たくさんの物はN子さんが作ってくださったものです。N子さんは当院の元患者さんで、退院後は復職され多忙な中で協力してくださっています。制作にあたっては、使う側の患者さんの視点、患者さんを援助する職員側の視点の両方を考えながら得意の裁縫技術を生かし、多くの依頼を快く引き受けてくださっています。作業療法科にとってなくてはならない存在です。

作業療法科 蛭田菜摘



都リハには

「凄腕療法士」が

おニューの
ユニフォーム♡



リハにゃん

まだまだいるって
本当かニャ?

表を見ての通り、
いろいろな専門分野の
資格保有者がいるよ



| | |
|---------------------|----|
| 義肢装具士資格 | 1名 |
| 脳卒中認定理学療法士 | 6名 |
| 運動器 // | 3名 |
| 基礎 // | 1名 |
| 介護予防 // | 1名 |
| 呼吸 // | 1名 |
| 摂食嚥下障害領域 認定言語聴覚士 | 1名 |

そつやってまた
自慢なのかニャ?

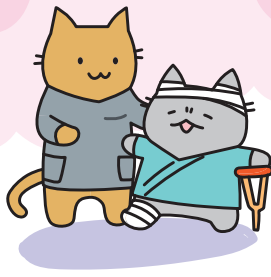


いつもリハにゃんくんが
聞いてくるから
答えてるのに:
指摘にしたってもう少し
具体的にしてもらわないと...
じゃー



ゴボニー!

ひとえに
リハビリテーション
と言っても
患者さんの状態は様々



血管系の病気で
入院している人や
骨折などのケガ
その他年齢層も含め
いろいろな人
が入院しているんだ



そのため幅広い知識が
必要になるので、
専門療法士さん
いるんだよ



そのほかにも
ケアマネジャー資格や
福祉住環境コーディネーター
障がい者スポーツ指導員など

自宅復帰後を
見据えた指導が
できるよう、
療法士は日々勉強を
しているんだよ

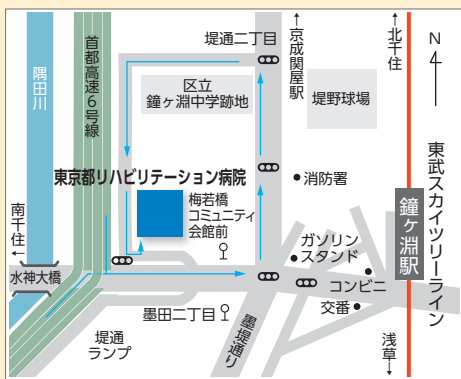


たいへん
よくわかり
ました



ニャーるほど!
療法士になったあとも、
皆さんずっと勉強に勤しんで
いるんだニャー...! 真似できないニャー...
皆さんの日々の勉強が
患者さんの回復に役立って
いるのかニャー。 安心安心!
今日も都リハのこと、
少し詳しくなったニャー!

交通案内



- JR山手線
- JR総武線快速
- JR中央線・総武線各駅停車
- JR中央線快速
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東武スカイツリーライン
- 東武亀戸線
- 京成本線



| | | | | | |
|-------|-------------|-----|-------------------|----|-----|
| 南千住 | 都営バス | 10分 | 梅ヶ橋/墨田区 ニライ会館前 | 徒歩 | 2分 |
| 錦糸町 | 都営バス | 25分 | 墨田二丁目 | 徒歩 | 4分 |
| 浅草 | 東武スカイツリーライン | 10分 | 鐘ヶ淵 | 徒歩 | 7分 |
| 亀戸 | 東武亀戸線 | 20分 | 京成関屋駅 | 徒歩 | 15分 |
| 北千住 | 東武スカイツリーライン | 5分 | | | |
| 京成上野駅 | 京成本線 | 12分 | | | |

東京都リハビリテーション病院



東京都リハビリテーション病院 広報委員会
〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8705
<http://www.tokyo-reha.jp>

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

編集後記
羽子板市の取材では、「曽根人形」さんにご協力をいただき、華やかに撮影をすることができました。羽子板は魔除けとして古くは室町時代から、お正月を彩る縁起物だったそうです。今回購入した羽子板は、珍しく男性をモチーフにしたものです。正面玄関の総合案内に1月下旬まで展示してありますので、来院の際は是非ご覧ください。

2019年1月1日(火)発行